

平成 30 年度 大田区区民協働推進会議（第 3 回）

日時：平成 30 年 9 月 20 日（木）
場所：本庁舎 6 階 602 会議室

【議題】

- 1 地域力応援基金助成事業の経過観察について
- 2 平成 30 年度の調査・研究テーマについて
 - (1) 「大田区立小・中学校「おやじの会」実態調査（続き）」について
 - (2) 「地域力応援基金助成事業の見直し」について
- 3 その他

【出席者】

委員：中島・牛山・平澤・茂野・寺田・志村・柳谷・櫻井・長沼
事務局：地域力推進部長、区民協働担当課長・地域力連携協働支援員・区民協働担当 2 名

【会議録】

	《開会》
事務局	委員 11 名のうち 7 名の方にご出席していただいています。過半数に達していますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第 6 条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。
会長	《会長あいさつ》
会長	部長から挨拶をお願いします。
部長	《部長あいさつ》
会長	会議を始めさせていただきます。 まず、地域力応援基金助成事業の経過観察について、事務局から説明をお願いします。
事務局	地域力応援基金助成事業の経過観察は、各助成の要綱の規定に基づき区民協働推進会議委員と区職員が助成 1 年目の団体に対し実施するものです。観察により、事業をより深く理解すること、第三者の目線でアドバイスすることで、事業が一層充実した内容になることを目的としています。また、観察結果は継続審査の際の参考としています。なお、今年度の継続審査については、事業全体の見直しのため内部で調整中です。継続審査の概要が固まり次第、本会議と対象団体へご案内する予定です。 今年度助成 1 年目の団体は、スタートアップ助成が 7 団体、ステップアップ助成が 8 団体の計 15 団体です。スタートアップ助成の観察は、審査を担当された公募委員にお願いしたいと考えています。あわせて、継続審査もお願いしたいと考えています。ステップアップ助成は、本制度見直しのため、来年度実施事業の今年度中の募集は困難だと考えています。来年度実施事業の審査員の決定はこれからですが、今年度のステップアップ助成の経過観察は、寺田委員と櫻井委員にお願いしたいと考えており、あわせてステップアップ助成の継続審査も担当していただきたいと思いますと考えています。 観察の日程は、後日担当と調整の上決定します。 また、審査担当以外の委員の方も、ぜひ同行していただければと思います。 経過観察は、確認シートを使用して実施状況を確認していただきます。シートは、観察項目ごとに状況を 4 択で選択していただくほか、良かった点や懸念される点についてコ

	メントを書く形式です。シートの内容についても、意見がありましたら教えていただきたいと思います。
会長	審査担当以外の委員の方も、事業を幅広く見ることができる機会ですので、ぜひ参加してください。観察の担当者の方は、事務局と調整を進めてください。
会長	次に、平成 30 年度の調査・研究テーマである大田区立小・中学校「おやじの会」実態調査について、事務局から説明をお願いします。
支援員	<p>本調査は、昨年度から行っている調査です。おやじの会は、地域の子育て世代、現役世代の男性中心のコミュニティであり、自治会・町会等の年配者中心のコミュニティや義務感を伴いがちな PTA を補完していると考えられます。</p> <p>昨年度は、おやじの会がある学校の数や各会の活動や運営に関するデータを把握できました。そこで今年度は、より具体的な事例についての調査を進めています。今後、各おやじの会に A4 サイズ 1 枚程度で事例を書きいただき、それを活動事例集としてまとめ、おやじの会同士、また地域の方にとっても参考になる資料を作りたいと考えています。事例を調査することで、加入促進のための事例や、他団体との連携の事例から、地域におけるおやじの会の可能性を展望したいと考えています。</p> <p>参考として、おやじの会の全国的動向、他自治体の動向がわかる資料を添付しました。大田区の近隣では、世田谷区に「オール世田谷おやじの会」というネットワーク組織があります。これは、区が実施した情報交換会が発足のきっかけとなったようです。また、横浜市には、教育委員会事務局におやじの会を担当する部署があります。</p> <p>6 月 24 日には、「おやじの会」実態調査報告会を開催しました。報告会の目的は、①平成 29 年度に実施した調査の報告、②当日参加したおやじの会のメンバー同士の情報交換でした。本会議からは、平澤委員、川口委員、柳谷委員に傍聴いただきました。当日の参加者は、26 校 38 名で、内訳は小学校 18 校 26 名、中学校 8 校 12 名でした。</p> <p>交流の時間を取るために、15 分程度で主だったものを中心に調査報告を行いました。また、昨年度の実態調査の他、今年度の事例調査のための予備調査も行っていたことから、その調査でわかった各校の加入・活動しやすくなるための取組みや地域団体との連携の紹介も行いました。活動 P R を盛んに行っている学校や、高齢化する町会と子育て世代の橋渡し役であると自己認識して地域と連携している事例などがあり、今年度はこのような事例をさらに深く調査・研究していく予定です。</p> <p>情報交換の時間では、小学校 5 班、中学校 2 班にわかれ、「話題にしたいこと」、「他校に聞きたいこと」をテーマに進めました。</p>
会長	以上の説明で、ご質問などがあればお願いします。
志村委員	おやじの会は今回交流の場が設けられましたが、PTA も交流的な取組みがあるのでしょうか。
支援員	PTA は連合組織があり、バレーボール大会や音楽祭、区長や教育長との懇談会や研修会など、様々な行事を行っています。日常的な情報交換は、地区ごとの会長会やブロック会議などで行われています。
志村委員	調査に、学校の規模の記載があればよりわかりやすいと思います。加入促進については、入りづらさがあるような意見はありませんでしたか。
支援員	加入促進は、成果があがっている学校もあればそうでない学校もあり、予備調査の加入・活動しやすくなるための取組事例の中でも、それぞれの会で分析されています。
平澤委員	参加した方を中心に、食事などを通して今後より親密になっていけばいいと思います。

柳谷委員	<p>報告会には、半分以上の学校が会のユニフォームを着用して参加していました。終了後、情報交換をしている場面もあり、会の良さをPRできるのだろうなと感じました。自身の地区の小学校のおやじの会が欠席だったのが残念でした。長年活動している会のため、活動が成熟して悩みがないのかもしれませんが。次回開催されることがあれば、より多くの参加があればよいと思います。</p>
会長	<p>本調査・研究を行うことでめざすものを、改めて教えてください。</p>
支援員	<p>地域コミュニティの世代間のつながりが作られることをめざしています。現役世代の男性は、足場がないと、なかなか地域に入っていきかけがありません。この調査で、7割の小学校におやじの会があることがわかっています。中学校は3割ですが、増える傾向にあります。小学校や中学校に現役世代の男性のコミュニティがあることで、そこから地域に人材が供給されていくと考えられ、今後はさらに、中学校のおやじの会の次の足場を考える必要があるかもしれません。</p>
会長	<p>この調査をきっかけに、おやじの会の活動を地域につなげていただきたいです。</p>
副会長	<p>おやじの会が中学校で広がっていない理由は、高校受験があるからでしょうか、それとも他の要因でしょうか。また、おやじの会と学校との関係性について教えてください。</p>
支援員	<p>中学校のおやじの会が少ない理由は、高校受験も一因かもしれませんが、中学校は3年間と短く、小学校と比較し人材の継承が難しいことが影響しているのではないのでしょうか。また、小学校で主力だった会員の子供が公立中学校に進学するとも限らないことも原因ではないかと思います。</p> <p>おやじの会と学校との関係性については、昨年度の学校への調査では概ね肯定的な回答で、多くの学校で力仕事など男性ならではの力を頼っていることがわかっています。ただ、今回の報告会の中では、学校側が会の立ち上げに消極的な例もあるという意見もありました。地域のスポーツ団体など他団体の活動が活発で、おやじの会がなくても済んでいるため。新たにおやじの会ができると関係が難しくなるといったことがあるのかもしれませんが。</p>
会長	<p>次に、平成30年度の調査・研究テーマである地域力応援基金助成事業の見直しについて、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>8月24日に、会長から区長へ地域力応援基金助成事業の見直しの提言書が提出されました。当日は、清水副区長、地域力推進部長、区民協働担当課長及び担当が同席しました。</p> <p>区長及び副区長は、提言書に一定の理解を得ているとして今回ご説明します。事業の詳細や庁内の調整はこれから進めていきます。</p> <p>これまで、本会議で検討した新助成制度の内容はこのとおりです。</p>

	(仮称) スタートアップ	(仮称) ステップアップ	(仮称) チャレンジ (チャレンジプラス)	
主旨	団体の基盤となる事業への支援	団体を発展させる事業やスタートアップ助成事業の規模拡大を支援	新たな地域課題や新規事業にチャレンジし、地域の連携・協働の深まりが期待できる事業への支援 ※区が示すテーマに即した事業の場合、申請額の上限を50万円増額	
要件	・オーちゃんネット登録団体 ・団体設立から概ね5年以内 ・これまで助成事業を実施していない	・オーちゃんネット登録団体 ・団体設立から概ね3年以上7年以内	・オーちゃんネット登録団体 ・区内で活動実績があり、設立から概ね6年以上 ・既存助成事業終了または新規助成制度における事業実施終了から2年以上経過	
助成総額【2590万円】	350万円	490万円	1750万円	
採択団体数	10団体以上	7団体以上	4団体以上	
助成額【新規】	上限	20万円【総額200万円】	40万円【総額280万円】	200万円(250万円)【総額1000万円】
	下限	なし	なし	なし
助成額【継続】	上限	15万円【総額150万円】	30万円【総額210万円】	150万円(187万円)【総額750万円】
	下限	なし	なし	なし
助成率	100%	100%	100%	
継続	可(最大1回)	可(最大1回)	可(最大1回)	

← スタート、ステップあわせて4年間で団体育成を応援

→ 新たな課題や分野への挑戦を応援

事務局

今後、検討する内容の案はこのとおりです。

	(仮称) スタートアップ	(仮称) ステップアップ	(仮称) チャレンジ (チャレンジプラス)
募集時期	今後検討(第4,5回を予定)		
助成対象期間	4月1日～翌年3月末日	4月1日～翌年3月末日	4月1日～翌年3月末日
助成対象経費	今後検討(第4,5回を予定)		
審査方法	1次審査：書類審査 2次審査：面接審査	1次審査：書類審査 2次審査：面接審査	1次審査：書類審査 2次審査：公開プレゼンテーション審査
審査員	推進会議委員4名程度 区管理職2名程度	推進会議委員4名程度 区管理職2名程度	推進会議委員4名程度 区管理職2名程度
申請書類	今後検討(第4,5回を予定)		
経過観察	区職員のみ、推進会議委員及び区職員の計2回	区職員のみ、推進会議委員及び区職員の計2回	区職員のみ、推進会議委員及び区職員の計2回

事務局

今後は、このような内容を検討する中で要綱等の整備を進める予定です。

見直し後の助成対象期間は、すべて3月末までとする案です。現行は、実績報告に時間をかけて取り組めるようスタートアップ助成の実施期間を2月末までとしていましたが、3月も事業を実施できるような案としました。見直し後も、事業終了前から実績報告の書き方等に担当が相談に乗ってフォローしていきます。

審査については、現行よりも申請上限・下限額を下げることにより、申請数が増加すると考えています。申請数の増により審査の負荷がかかるため、効率的に進められるよう、審査内容の検討とあわせ申請書類の見直しが必要だと考えています。事務局案がまとまればお示しします。

	<p>経過観察については、現行制度では委員と事務局とで1回ですが、新制度では採択後速やかに事務局が観察に行き、その後従来の時期に委員と事務局が一緒に行く案です。時間をおいて2回観察することで、事業の経過等をより正確に把握できると考えています。</p> <p>募集時期について、現行制度ではステップアップ、ジャンプアップ助成は前年度募集ですが、制度見直しの庁内の調整が済んでからの発表となることから、平成31年度実施事業については来年4月以降、全メニューをほぼ同時に募集する案としました。(仮称)スタートアップ助成と(仮称)ステップアップ助成は4月上旬募集、5月審査、7月交付決定、(仮称)チャレンジ(チャレンジプラス)助成は、5月募集、6～7月審査、9月交付決定を考えています。</p> <p>平成32年度以降の実施事業については、(仮称)ステップアップ助成及び(仮称)チャレンジ(チャレンジプラス)助成を前年度募集、(仮称)スタートアップ助成は年度初めに発足した団体も申請できるよう実施年度に募集する案です。</p> <p>皆様から忌憚ない意見をいただき、内容を修正していきたいと考えています。</p>
会長	以上の説明で、ご意見やご質問はありますか。
志村委員	(仮称)チャレンジプラス助成の、区が示すテーマはどのように示すのですか。
事務局	全庁的に募集テーマの調査をかけて設定します。福祉であれば、たとえば「高齢者の居場所づくり事業」のように大まかなイメージです。詳細まで区で決めるのではなく、団体が自由に提案できる余地を残したいと考えています。
茂野委員	これまでの検討について、比較的いい内容という印象です。ただ、限られた資源を配分するために申請事業の中から評価して採択事業を決めるなかで、どうしても上から目線になりがちではないでしょうか。チャレンジしようとする団体から、私たちは課題や手法を学び、それを広く伝えて新たなネットワークを提供したりするべきだと思います。他の助成事業では、視察に訪れた職員の方々は、手法など情報収集し、全体に活かすために発信しています。私たちもそのような姿勢であるべきではないでしょうか。
会長	地域での課題を話し合う機会を設けてもいいかもしれません。地域での協働が進むよう論じ合う機会も大切です。地域団体の活動は、広く周知されて地域に還元されて欲しいと思います。この会議も回数を増やすなど柔軟性を持たせてはいかがでしょうか。
副会長	茂野委員のご提案について、具体的なアイデアはありますか。
茂野委員	報告会を開催し、団体の活動成果をみんなで共有できる場があればよいと思います。
志村委員	審査をする中で、ユニークな取組みをされている団体が多いとわかる一方で、この助成事業に慣れている団体もいる印象です。今回の見直し案では1団体あたりの助成金額が下がるので、団体にとってより掴みやすい制度になるといいと思います。経過観察も新たな発見があり、学ぶ機会となりました。決して上から目線ではないと思っています。
長沼委員	現在の防災の業務を行う中で、総力をあげて取り組むために連携が必要であることを実感しています。(仮称)チャレンジプラス助成では、団体の提案とうまくマッチングできるように自分がどういうテーマを出せるか、宿題だと思っています。
櫻井委員	初めて申請して不採択だった団体も、次に向けてまたチャレンジしていただけるなど、情熱を持っている方々へも眼差しが向いていけばよいと思います。
柳谷委員	委員として助成事業に関わり、しっかりした審査を経て、審査をする私たちにも責

	<p>任があると感じます。新たな発見やつながりもあり、委員として関わってよかったと思っています。</p>
寺田委員	<p>自治会・町会や商店街等、地縁団体以外にも意欲的な団体がたくさんあります。ただ、協働の考え方が特別出張所に届いていないのが課題ではないでしょうか。中には地縁団体とNPO等の団体の連携が進んでいる地区もありますが、ほとんどの自治会・町会長は知りません。特別出張所と区民協働の連携が進むよう、各地区の地域力推進会議で団体の成果発表をする時間を設けたりすることで、高齢化に悩む地縁団体と今後伸びようとしている団体のマッチングが進むと思います。</p>
平澤委員	<p>大事な区の助成金を使うので、的確に使っていただくために審査では多少上から見ざるを得ない部分もあると思います。応募事業から、こういう発想があると知ることは私たちもとっても勉強になります。今後もこの助成事業を多くの団体に利用していただき、大きく育ててほしいと思います。</p>
志村委員	<p>さきほど成果の報告会とありましたが、公開で報告する場づくりを進めてもいいのではないのでしょうか。団体にとってもやりがいにつながると思います。</p>
会長	<p>先日、六郷地区で英語のスピーチ大会をしました。地域で活動する団体が提案した事業で、町会・自治会や福祉施設、学校などが連携し、見事なイベントになりました。中学生が一生懸命発表する姿を見て、連携団体だけでなく地域全体にとって励みになりました。</p>
寺田委員	<p>イベントは、地域で地域を支える社会、地域包括ケアにつながるヒントになりました。NPO等の団体と地縁団体のコラボレーションが実現できたと感じます。</p>
会長	<p>予定していた議題は以上です。何かございましたらご発言願います。</p> <p>《意見なし》</p>
会長	<p>事務局から報告はありますか。</p>
事務局	<p>《事務連絡なし》</p> <p>《平成30年度 第4回は、11月22日（木）に開催》</p> <p>《閉会》</p>